


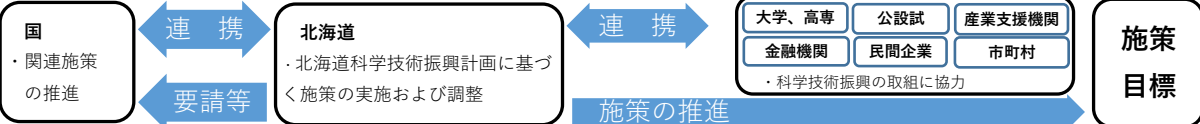


令和3年度 基本評価調書①		所管部局	総合政策部	所管課	科学技術振興課	
施策名	本道活性化のための科学技術の振興			施策コード	05132	
政策体系(中項目)	新たな成長産業への挑戦や研究開発の推進			政策体系コード	2(4)C	
知事公約	C0053, C0100	総合戦略	A3451, A3452, A3754	国土強靱化	-	事務事業数 9
SDGs	  			総合判定	順調	

【1 Plan】

施策目標	本道の特性を活かした研究開発や研究成果の移転促進等のため、産学官金等の協働や、研究開発拠点の形成などを推進するほか、科学技術に親しむ機会の提供、科学技術・産業の発展などを担う人材の育成・確保、新事業、新産業の創出に結び付く知的財産の戦略的な創造・保護・活用を推進。					
現状と課題	道では、国の大型プロジェクトを活用した研究開発拠点の形成や研究開発機能の充実など、科学技術の振興に取り組んでおり、産業の振興を一層図るため、産学官金等が連携しつつ、大学を核とした研究開発拠点の形成や、地域の強みを活かした新技術・新商品の創出などを進める必要がある。					
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術振興条例及び北海道科学技術振興計画に基づく各種取組 北海道科学技術振興計画に基づく施策の実施および調整 先端技術の活用や本道の強みを活かした産学官連携の推進 本道における知的財産の創造、保護及び活用の促進 					
予算額(千円)	R3	105,011	R2	129,103	R1	1,148,607
施策のイメージ						

〈成果指標の達成状況〉 ⇒ 3つ以外の指標は、補助指標調書に記載

指標名①	増加	件	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
産学官の共同研究の件数	目標値		1,333	1,357	1,374	1,700	112.9%	A
	実績値		1,428	1,543	1,551	-		
設定理由	総合計画における政策の方向性「本道の活性化に役立つ科学技術の振興」中の産学官の協働状況を測る指標として設定。							
分析(主な取組と成果)								
産学官連携の研究や、大学発のベンチャー企業の創業・育成に対する支援など各種施策により、協働に向けた機運醸成が図られてきており、目標値を達成。本道活性化のための科学技術の振興のさらなる推進のため、産学官等の関係機関の連携強化や協働を推進していくことが重要であると考え。								

指標名②	増加	人	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R4)	達成率	指標判定
「サイエンスパーク」参加児童生徒数	目標値		1,400	1,400	1,400	1,400	107.1%	A
	実績値		1,300	1,400	1,500	-		
設定理由	北海道科学技術振興計画において、科学技術に対する理解と信頼を得るために実施する事業「サイエンスパーク」の数値目標として設定。							
分析(主な取組と成果)								
参加しやすい会場の確保や積極的にPRしたほか、関係機関と連携し、イベント内容の充実を図った結果、目標値を達成。道民が科学技術に触れ合う機会の確保は、科学技術振興への理解促進にあたり重要であると考え。 ※R2は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催(参考:11,000アクセス)。								

指標名③	増加	件	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R4)	達成率	指標判定
道内大学等における特許等の実施許諾数	目標値		880	880	880	880	144.7%	A
	実績値		712	945	1,273	-		
設定理由	北海道科学技術振興計画において、知的財産の創造、保護及び活用に関する推進状況を測るための数値目標として設定。							
分析(主な取組と成果)								
北海道知的所有権センターにおいて特許流通を促進してきたほか、北海道知的財産戦略本部の構成機関と連携し、知的財産の普及啓発を行った結果、目標値を達成。大学等の保有する知的財産の積極的な活用を通じ、本道経済の活性化を目指すことは重要であると考え。								

令和3年度 基本評価調書②	施策名	本道活性化のための科学技術の振興	施策コード	05132
---------------	-----	------------------	-------	-------

【2 Do&Check】

成果指標	指標名	前々年度	前年度	評価年度	評価年度目標値	指標判定
成果指標	産学官の共同研究の件数	1,428	1,543	1,551	1,374	A
	「サイエンスパーク」参加児童生徒数	1,300	1,400	1,500	1,400	A
	道内大学等における特許等の実施許諾数	712	945	1,273	880	A
目標(指標)の達成状況	産学官連携、道民の科学技術に対する理解促進や大学等の知的財産の活用といった本道活性化のための科学技術の振興に向けた取組は、関係機関との協働に向けた機運醸成が図られたことにより、目標値を上回り、順調に推移している。				指標総合判定	A
連携状況	大学やその他の試験研究機関に対しては、ノーステック財団が行うイノベーション創出研究支援事業などを通じて、道内における産学官による共同研究や事業化を支援している。				連携判定	○
緊急性優先性	「北海道科学技術審議会」や地域の有識者から意見を聴取する「地域懇談会」の開催を通じて道民ニーズの把握に努めており、把握したニーズを踏まえ、産学官等の協働などを推進している。				緊急性優先性判定	○
総合判定の根拠	産学官が連携した共同研究は毎年度増加傾向にあるなど、科学技術振興に向けた取組は順調に進んでおり、今後も、科学技術振興計画や地域企業のシーズ・ニーズに応じた産学官連携を図ることで、本道経済活性化に努める。				総合判定(一次評価)	順調

翌年度に向けた対応方針	対応方針番号	内容
	①	共同研究による成果を発揮できるよう産学官の共同研究を推進するとともに、北海道内の8の大学・国立研究機関と連携しながら社会問題の解決を図る「チャレンジフィールド北海道」など新たな取組を軌道に乗せることで、科学技術の振興を推進。
②		
③		

〈二次政策評価〉

前年度二次評価意見	対応状況(R3.3時点)
R3年度二次政策評価	

【3 Action】

二次政策評価への対応	
R4施策の方向性	○共同研究による成果を発揮できるよう産学官の共同研究を推進するとともに、北海道内の8の大学・国立研究機関と連携しながら社会問題の解決を図る「チャレンジフィールド北海道」の着実に推進するほか、北海道Society5.0を実感できる体験型科学イベント「サイエンスパーク」を開催する。

令和3年度 基本評価調書②	施策名	本道活性化のための科学技術の振興	施策コード	05132
----------------------	------------	------------------	--------------	-------

【成果指標の達成状況】

補助指標名①	増加	件	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R4)	達成率	指標判定
特許流通サポーターによる特許流通相談件数		目標値	735	740	745	755	76.9%	D
		実績値	714	785	573	-		
設定理由	北海道科学技術振興計画において、知的財産の創造、保護及び活用に関する推進状況を測るための数値目標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
北海道知的所有権センターにおいて特許流通を促進してきたほか、北海道知的財産戦略本部の構成機関と連携し、知的財産の普及啓発を図ることで令和元年度は目標値を達成。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い相談件数が減少したが、今後の本道経済活性化に向けて同センターが特許流通の促進において果たす役割は大きいことから、引き続き、適切な運営に努める。								

補助指標名②			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

補助指標名③			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

補助指標名④			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

補助指標名⑤			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

